

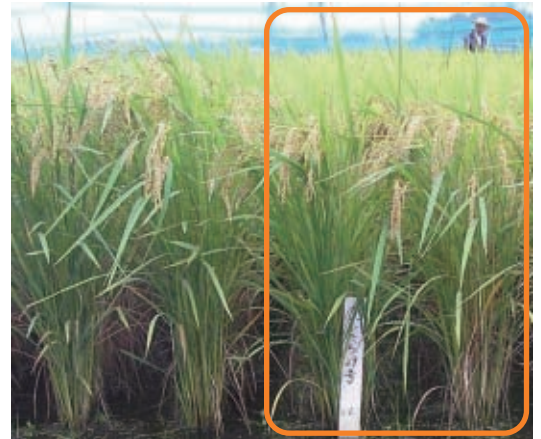
品質が優れる極早生水稲新品種「一番星」 (品種登録出願中)

生物工学研究所・農業研究所

1 背景と目的

本県の極早生品種の主力である「あきたこまち」では、一部の地域で、いち早い新米需要に対応するための早刈りによる青米の混入や、登熟期の高温に起因する白未熟粒(白濁する粒)などの発生によって品質低下が問題となっています。そのため、「あきたこまち」より早く成熟し、高温下でも安定して品質に優れた極早生品種が強く要望されていました。

そこで、これらの特徴を兼ね備えた水稲新品種として「一番星」(写真1)を育成しました。

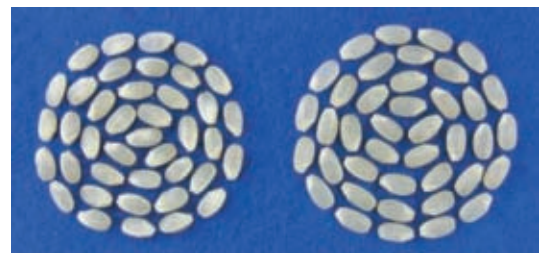


あきたこまち 一番星
写真1 草姿

2 研究成果の概要

○「一番星」の特徴

- ・「あきたこまち」と比べて、成熟期は2日程度早く、倒れにくいので、作りやすい品種です。
- ・冷害にも強く、高温下でも白未熟粒の発生が少ないなど、品質が安定して優れます。
- ・大粒で粒揃いが良く、見た目が優れます(写真2)。
- ・炊飯米は柔らかく粘りがあり、食味は良食味の「あきたこまち」と同等です。



あきたこまち 一番星
写真2 玄米の外観(各40粒)

3 実用化に向けた対応

現地試験の結果でも、極早生・大粒・高品質の優れた特性が認められました。

平成25年度には県の奨励品種(認定品種)に採用され、潮来市、稲敷市などの早場米地帯を中心に約30ha栽培されています。

本県の極早期米の主力品種としての実需者評価を確立すべく、さらなる早期収穫技術等の確立に取り組むとともに、関係機関と連携しながら、普及・定着を支援していきます。



写真3 圃場検討の様子

「一番星」に関する生産者の声、実需者の声

農家から:穂揃いが良く栽培しやすいです。穂の色づきが早く、収穫適期を見極め易いうえ大粒で品質も良く、優れた特性を持っているので大いに期待しています。

実需者から:粒の外観が良く、食味に優れ、炊飯後の劣化も少ないと言えます。